

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 佐治 重衡
福島県立医科大学腫瘍内科学講座 主任教授

研究要旨：本研究では、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とし、その内容の作成とコミュニケーション方法の評価をおこなう。

A. 研究目的

本研究は、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなど負の側面も含めて正確な情報を提供する。情報ツールとしては、学会のホームページ、患者会のホームページ、NPOがん関連ネット、メディア企業、医学系出版社、大手インターネットサイトを用いる。国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

B. 研究方法

インターネットなどを用いた情報配信事業については、情報ツール、コンテンツ及び運営方針（記事更新のタイミングなど）を決定し、分担執筆者を選定する。出版事業に関しては、書籍名、内容、項目を決定し、出版社、分担執筆者を選定する。がん患者、患者家族に対するコミュニケーション方法について実地診療のなかで、電子媒体や動画等を用いた場合の有用性や問題点についても評価する。

C. 研究結果

一般の人を対象とした、ウェブサイト「がんゲノムネット(仮称)」および書籍「よくわかるがんゲノム医療(仮題)」の制作を企画し、その掲載内容について検討をおこなった。担当分として”各種がんに

おけるがんゲノム医療”について5つのQAを設定し、それらの項目についての執筆者を決定した。がん患者、患者家族に対するコミュニケーションツールの可能性として、タブレット端末を用いた、スライド・動画によるがんゲノム医療（BRCA1/2遺伝子検査等）説明の実践を実地診療のひとつとして開始した。

D. 考察

患者さんが必要とする情報、一般の人が必要とする情報の違いを認識しつつ、シンプルなQAの重要性とその提供方法の検討が重要と考えられた。

E. 結論

ウェブサイト、書籍用の「がんゲノムネット」コンテンツ内容を決定した。

F. 研究発表

1. 論文発表
佐治重衡（日本乳癌学会 診療ガイドライン委員会 副委員長）、乳癌診療ガイドライン 2018年版、日本乳癌学会編、金原出版、2018.

2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし